



東京経済大学ニュース

Vol. 01

東京経済大学ホームページ : <http://www.tku.ac.jp/index.html>

CONTENTS

1 特集1 日本初のコミュニケーション学部 開設 20 周年

●Interview 川浦康至 コミュニケーション学部長

「20年という節目。学部開設の熱き思いに立ち返る」

●開設 20 周年を記念してケコミの本を出版しました

国内初のコミュニケーション学部としてスタートした 20 年前を振り返る

コミュニケーション学部開設 20 周年記念 PR ビデオ完成

コミュニケーション学部の授業シーンを公開

2 特集2 進一層トライアル

●進一層トライアル (2014・2015 年度教育改革支援制度)

「図書部 2014・2015」で読書、図書館利用を促す／TKU サイエンスシリーズ 2014・2015／企業及び非営利組織とのコラボ企画によるアクティブラーニング／グローバル化と地域連携の両方を推進する授業科目の開発／スカイプを活用した英語教育／学内私塾「キャリア塾」の試み／学外施設連動型ワークショップ

3 東経大インフォメーション

①ネパールとの親交

②シリーズ『ゼミする東経大』

③多摩信用金庫、西武信用金庫との連携

④大学案内「Space2016」：「東経 100 カラット」サイト開設



特集1 日本初のコミュニケーション学部 開設20周年

「20年という節目。学部開設の熱き思いに立ち返る」



コミュニケーション学部長 川浦康至

東京経済大学コミュニケーション学部は今年度、開設20年を迎えました。

本学部は1995年4月に東京経済大学3番目の学部として発足しました。この年は、阪神淡路大震災や地下鉄サリン事件が起きた激動の年であると同時に、インターネット元年とも称されました。

国内には、それまでコミュニケーション学を看板にかかげる学部はなく、本学部は日本初のコミュニケーション学部として注目されました。図らずも、コミュニケーション系学部の嚆矢（こうし）となったようです。その後、日本各地の大学でコミュニケーションと名のつく学部が陸続とできていきました。

最初の定員は150人、その後2004年に200人に増やし、これまでに3377人の卒業生を送り出してきました。教育課程を見直し、今年度入学生から「メディア」「企業」「グローバル」の3コースに分かれて履修するようにしました。入学者の意向を重視すると同時に、コミュニケーション学部の特徴を伝えやすくしたいと考えてのことです。

開設20周年という節目を迎え、コミュニケーション学部のこれまでを振り返り、コミュニケーション学の課題について考える機会を用意しました。

皆さまにご参加いただければ幸いです。



開設 20 周年を記念しトケコミの本を出版しました

国内初のコミュニケーション学部としてスタートした 20 年前を振り返る

開設から 20 年という大きな節目に発行した本書は、本学部のこれまでを振り返りつつ、これからのありかた、さらにこの学問の今後を展望するため企画されたものです。

書名は「コミュニケーションを考える、コミュニケーションで考える」という学部設立趣旨に由来します。

コミュニケーション学部の 20 年とコミュニケーション学

『コミュニケーションという考えかた』



発行：2015 年 5 月発行

判型：四六判／262 ページ

編者：東京経済大学コミュニケーション学部

発行所：東京経済大学

※2015 年 7 月 26 日（日）以降、本学ホームページよりダウンロード可能です。

主なコンテンツ

- [鼎談]コミュニケーション学部の開設を巡って：田村紀雄×浜野隆典×三上卓也
- コミュニケーション学部開設と総合大学化：富塚文太郎
- なぜコミュニケーション学部か：田村紀雄

ほか



ホームカミングウィーク開催

卒業生向けに、現在のコミュニケーション学部の授業を公開

「コミュニケーション学部開設 20 周年記念 ホームカミングウィーク」と題して、2015 年 6 月 15 日から 19 日までの 5 日間で行われた授業の公開は、コミュニケーション学部の卒業生に現在の学部の学びを知ってもらおうと企画されたものです。

佐々木裕一コミュニケーション学部准教授の「ウェブ・マーケティング論」をはじめ、コミュニケーション学部教員が担当する計 51 の授業が公開されました。

佐々木ゼミに所属していた卒業生が受講した「ツイッターと拡散」というテーマの授業では、図やグラフを用いながら、ツイッターの利用形態や拡散性について講義が行われ、佐々木准教授は「情報過多によって、利用動機によっては、友人からのツイート以外は無視される確率が高い。企業側はどれだけツイートが読まれていないかをもっと考える必要がある」と、現在の SNS の実態に迫りました。

受講した卒業生のひとり、インターネットサービス関連企業に勤務している竹本晴香さん（2009 年コミュニケーション学部卒）は「コミュニケーション学部で学んだソーシャルメディアの仕組みや活用法が、現在の実務に生かしています。就職すると、勉強できる時間が限られてくるので、自由な時間がたくさんある大学での生活、そして学びを大切にしたい」と、後輩である在學生にエールを送りました。

なお、この「ホームカミングウィーク」は 2015 年 10 月にも開催する予定です。



佐々木裕一准教授の授業風景



コミュニケーション学部開設 20 周年 PR ビデオ完成

桜井ゼミの学生が 11 カ月を費やした 22 分の大作

本年 1 月、コミュニケーション学部開設 20 周年を記念し、映像制作に取り組む桜井哲夫ゼミ生が制作した「コミュニケーション学部創設 20 周年記念 PR ビデオ」が完成しました。

1995 年に開設した学部の歴史や概要、授業紹介、卒業生や教員の出演コメントに加え、川浦康至コミュニケーション学部長へのインタビューなど、学生ならではの視点で集めた映像を 22 分にまとめました。

企画は 2014 年 3 月にスタートし、コンセプトの練り上げや取材、編集、そして試写まで約 11 カ月もの月日を費やした大作です。

この作品は今後、各種記念行事やオープンキャンパスで上映される予定です。

20 周年を祝う記念イベント開催も決定

記念シンポジウム「コミュニケーションの現在とこれから（仮題）」の開催

2015 年 12 月 12 日（土）14:00～17:30、東京経済大学国分寺キャンパスにおいて、コミュニケーション学部開設 20 周年記念シンポジウムを開催します。

現在、学部設置されているメディア、企業、グローバルという 3 つのコース名をキーワードに、コミュニケーションの最前線で活躍される方々の声を聞くという充実した内容です。さらに本学研究者や来場された皆さんとのディスカッションを通じ、コミュニケーションの現在とこれから、またコミュニケーション学の今後の方向性について洞察を深めます。

パネリストにはディヴィデュアル共同創業者である情報学研究者のドミニク・チェンさん、スマートニュース執行役員の藤村厚夫さん、写真家の荻野 NAO 之さんをお迎えする予定です。



特集2 進一層トライアル (2014・2015年度教育改革支援制度)

進一層トライアルとは

「進一層 (しんいっそう) トライアル」は、教育改革に資する取り組みを支援するため2014年の秋にスタートした制度です。初年度には5つのテーマをピックアップ。いずれも継続採択され、現在もさまざまな活動が繰り広げられています。今年度から新たに採択された2つのテーマとともに、それぞれの主な活動状況をお知らせします。

進一層

東京経済大学の前身、大倉商業学校の創立者である大倉喜八郎は、「一步前に出て道を切りひらくチャレンジ精神」を「進一層」と呼び、建学の理念としました。

「図書部 2014・2015」で読書、図書館利用を促す

申請者：相澤伸依 経営学部准教授 (2014年度)

新正裕尚 経営学部教授 (2015年度)

「図書部」は、多くの学生が本や図書館と親しむきっかけづくりを目指して活動を行っています。主な活動のひとつである選書企画では、「世界の言語と文化を学ぶ」、「東海道新幹線開業50周年」、「宮澤賢治とふしぎな石」、「伝記を読む」、「恋愛を考える」というテーマを設けてオススメの本をセレクトし、紹介文のPOPを添えて図書館に展示しました。

また、読書会では教員とゲストが促進役となり、感想を話し合う時間を設けました。お題本はマイケル・サンデルの『これからの正義の話をしよう』やF・ニーチェの『喜ばしき知恵』といった哲学書から、星新一の『人民は弱し 官吏は強し』、有川浩の『フリーター、家を買う』など人気小説、東浩紀の社会評論『動物化するポストモダン』、安彦麻理絵のコミック『コンナオトナノオンナノコ』とバリエーション豊富なこともあり、学生から

教職員まで多くの参加者が集まりました。

さらに、図書館見学ツアー、図書部だより発行などの活動。『なぜ、私たちは恋をして生きるのか』の著者である宮野真生子氏 (福岡大学准教授) と同書を書評した藤村安芸子氏 (駿河台大学准教授) を招き、ディスカッションを行うブックトークも開催しました。

2014年4月には新図書館もオープンし、旧図書館と比較して来館者が3割も増えました。図書部による選書展示資料の貸出回数は、1冊あたり約1.5回。作品によっては4回を超えるものもあり、展示効果の大きさがうかがえます。



図書部だより



TKU サイエンスシリーズ 2014・2015

申請者：榎 基宏 経営学部准教授（2014 年度）

阿部弘樹 コミュニケーション学部専任講師（2015 年度）

TKU サイエンスシリーズは、喫茶を楽しみながら気軽に科学研究者の話聞いて自由に論議する「サイエンスカフェ」、最先端の科学や技術研究の現場の見学を行う日帰りの「サイエンスツアー」開催が主な活動となります。

2014 年のサイエンスカフェは 11 月に中山江利氏（明治大学先端数理科学研究科）による「身近な折り紙が生活を豊かに!?!~折り紙の数学と実用面での応用~」、12 月は野村真理子氏（国立天文台）による「コンピュータシミュレーションで迫るブラックホールの謎」を開催。いずれも 20 人以上の参加者を集め、演者と積極的に意見を交わし合う学生の姿が見られました。

サイエンスツアーでは 2015 年 1 月に、国土地理院にある地図と測量の科学館と農業環境技術研究所（茨城県つくば市）を訪問。2 月には原子力科学研究所（茨城県東海村）を訪問し、研究用原子炉「JRR-3」、大強度陽子加速器施設「J - PARC」を見学しました。原子力科学研究所で話を聞いた学生は、「今までの自分にはなかった考えがプラスされ、情報のバランスを保つことができた」、「研究員の白衣や巨大装置を目の当たりにし、解析モデルや装置の仕組みを学ぶことができた」との感想が寄せられています。

2015 年度はサイエンスカフェ、サイエンスツアーに加え、進一層トライアル制度発足前の 2011 年度から続けてきた TKU サイエンスシリーズの取り組みを、教育系研究会や学会で発表することも検討しています。

企業及び非営利組織とのコラボ企画によるアクティブラーニング

申請者：小木紀親 経営学部教授（2014・2015 年度）

「企業及び非営利組織とのコラボ企画によるアクティブラーニング」の活動主体は小木ゼミナールで、2014 年度には 3 つのコラボ企画を実施しました。

地域から日本を元気にするため、地域の Web プラットフォームを運営している NPO「ニッポニア・ニッポン」とのコラボレーションを計画。国分寺の魅力伝える Web サイト「国分寺物語」の企画や取材、編集などの運営業務に携わりました。武蔵国分寺など市内の名所や史跡がサイトに掲載されており、ゼミ生がインタビューした市民のコメントを読むこともできます。



1877年に創業した洋菓子製造販売会社である鈴木栄光堂とタッグを組んだ新商品づくりプロジェクトでは「こんなお菓子があつたらいいな」をテーマに、同社の経営資源を生かした新商品開発と市場調査、販売プロモーションなどにゼミ生が参加。水族館向けの土産品や学生をターゲットにした誕生日プレゼント菓子、“ひとりじめ”スイーツなどの商品を提案しました。

本学生協食堂とのコラボでは、対象メニューや食品を購入すると開発途上国の学校給食1食分(20円)を寄付する国際的な活動「TABLE FOR TWO プログラム」を展開。オリジナルメニュー「2種ルウ☆ふわとろオムライス」は期間中に497食を販売し、9940円を寄付しました。

2015年度もこの3つのコラボを継続し、さらに発展させていくことを計画しています。

国分寺物語 <http://kokubunjimonogatari.com>

グローバル化と地域連携の両方を推進する授業科目の開発

申請者：柴田 高 経営学部教授 (2014・2015年度)

「グローバルキャリア入門」は、柴田高教授が「グローバル化と地域連携の両方を推進する授業科目の開発」というテーマで応募し、2014年の秋に採択された特別講義です。半年かけてタイ現地調査や企業見学などの準備を行い、2年目となる2015年度に新たな授業科目「グローバルキャリア入門」をスタートさせ、5～6月にはタイのバンコクにある泰日工業大学から6人の短期留学生を受け入れました。

タイから短期留学生を迎える一方、授業の履修者自身も留学生として現地を訪問します。この授業では異文化コミュニケーションの経験を積むと同時に、日本国内における「内なるグローバル化」や海外における「外なるグローバル化」を体験します。

2007年に開学した泰日工業大学は、盤谷(バンコク)日本人商工会議所のメンバーである日系企業が出資して設立。日本型のモノづくりを教えることを目指しており、卒業後は日系企業に就職し日本的経営の基礎を学ぶ例もあります。

今回来日したのは経営学部の学生6人で、国際交流会館に滞在しながら日本企業の経営戦略やマーケティング、経営情報、会計に関する日本語の授業を受講するほか、ソフトウェア企業のインテリジェントオフィス、コンビニのバックヤード、多摩地区のグローバルニッチトップ企業などを見学しました。



スカイプを活用した英語教育

申請者：対馬輝昭 経済学部教授（2014・2015年度）

マイクロソフト社が提供するインターネット電話サービス『スカイプ（Skype）』を活用しオンラインで英会話を行うなど、今後の英語教育における可能性を探ることが、「スカイプを活用した英語教育—グローバルキャリアプログラム豪州コース生へのトライアル授業」の主な目的です。

具体的な活動としては『英会話サプリ（株式会社リクルートマーケティングパートナーズ）』を利用し、オーストラリアでの英語授業やインターンシップを体験する「グローバルキャリアプログラム豪州コース」の受講生に対し、授業形式でのレッスン、または個別でのレッスンを実施。2014年度は海外へ留学する前にスカイプを利用したレッスンを4回行った実績があります。スカイプを使った英会話時間は1回あたり約25分。教員によるサポートも行い、授業外レッスンを課題とした自主的な利用を奨励しているため、会話の量が増えると受講者には好評でした。

オーストラリア研修終了後は集中授業日を利用し、授業内レッスンのほか個別レッスンを推奨。自主的にプランを立てながら30回以上利用した3年生もいました。

2015年度、1～2年生は『英会話サプリ』の授業外利用を評価に反映させ、さらに学習量を確保。利用希望度の高い3年生には、集中的に英会話力を伸ばす機会を提供します。

対馬輝昭教授は「マンツーマンで学生個人のレベルに応じた、スピーキングとリスニングの訓練ができます。授業内で行うことについては、担当教員が助言を与えられるため個人で取り組むよりも高い効果が期待できます」と話しています。



『スカイプ（Skype）』を利用した授業



2015 年度新規採択テーマ

学内志塾「キャリア塾」の試み

申請者：南原 真 経済学部教授（2015 年度）

学内志塾「大倉進一層キャリア塾」は、2017 年度創設を目標としたトライアルです。キャリアに関わる勉強会や講演会を通じ、学生個々の就業力を高めていくことを目指します。

具体的な取り組みとしては、若手や中堅の OB・OG を講師としたキャリアに関わるゼミを実施するほか、OB・OG による業界別講座や企業分析講座の実施、また実業界で成功した OB・OG によるキャリア講演会なども開催します。さらにアクティブラーニング方式によるリーダーシップ開発セミナーやものづくり企業ツアー、就業力強化のための教材開発などバラエティ豊かなプログラムを計画しています。

学外施設連動型ワークショップ

申請者：光岡寿郎 コミュニケーション学部専任講師（2015 年度）

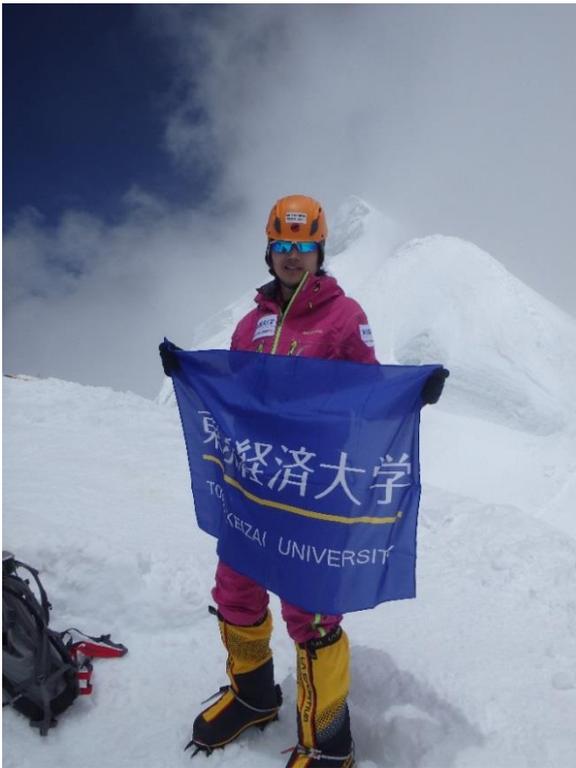
「学外施設連動型ワークショップ」は、「データ調査ワークショップ」（2015 年度 2 期）において、学外施設と実験的に連動することで教育効果の向上を図る新しい取り組みです。例年、本講義では 1 期に地域（野外）調査の手法の共有、2 期には特定のテーマに基づく提案型の成果発表を行っていますが、2015 年度は地域と文化施設の関係性をテーマとして土曜日に 2 回程度、地元根差した文化施設を訪問する予定です。

訪問・調査に先立ち、施設の担当者を講師として招聘するレクチャーも実施。フィールドを通じた人々との交流や現場での実体験を通じ、ゼミとは異なる少人数制教育の在り方を模索します。

東経大インフォメーション

① ネパールとの親交 ～最年少でエベレスト登頂を目指した伊藤伴さん～

関昭典ゼミはネパール支援の募金活動を開始



ロブチュ・ピーク山頂にて(4月22日)

ームテントに向かい、そこで談笑していました。すると突然、地面が揺れだしました。テントから出るとまだ揺れています。氷河が割れるのではないかと、陥没するのではないかと思いました。すぐにビデオを回し始めると雪崩の音です」と伊藤さんは恐怖の瞬間を、こう振り返ります。

巨大な雪の壁が崩落し、爆風とともに猛スピードで流れてくる中、近藤隊長とともにサンダルを履いたまま崖を駆け下りた伊藤さんは、本当に奇跡的な運に助けられ九死に一生を得たのです。

登頂を断念し、通常なら3日で歩くルートを実6日間かけて下山した伊藤さんは、すぐに日本へ帰らず、被災地のひとつであるダルマスタリでボランティア活動を行いました。「できることはとても少なかったのですが、ネパールに滞在しホテルに泊まり、レストランでご飯を食べお土産を買うことが、少ないながらもネパールの経済復興になります。それも

2015年4月9日に日本を出国し、標高8848メートルという世界最高峰エベレストの頂を目指した経営学部経営学科2年生の伊藤伴(いとう ばん)さんは、4月25日に発生したネパール大地震に遭遇。雪崩や爆風にさらされるなか奇跡的に生還し、日本への帰国を果たしました。

日本人最年少でエベレスト登頂を目指したことで期待と注目を集めていた19歳の伊藤さんは、登山隊の一員として標高2800メートルのルクラからエベレストのベースキャンプまで約2週間をかけてトレッキング。高度に体を慣れさせるため、徐々に高い山への移動を続けました。

そして4月25日、標高約5300メートルにあるベースキャンプで滞在中、地震に襲われたのです。「私と(登山隊の)近藤隊長を含めた5人は無線など機械系のあるド



間接的な支援だと思います」。伊藤さんはそんな思いで支援物資の供給などを行いました。

5月16日に日本へ帰国した伊藤さんは、約1カ月半が経過した6月30日に東京経済大学内の「大倉喜八郎 進一層館 (Forward Hall)」で開催された帰国報告会に出席。「現場を見てきた自分たちが情報を発信することで、間接的な支援になります。登山中も震災後もネパールの人たちやシェルパの人たちにはとてもお世話になりました。彼らなしでは登山計画は立てられないし、ネパールでの長期滞在もできない。今後も支援を続けていくことをライフワークのひとつにしていきたい」と現地での体験を振り返りながら、多くの支援者や教職員、学生に対し感謝の言葉を述べました。



登山を前に現地の僧侶と

ネパール大地震を支援する募金を動画で呼びかけ

この大地震の報告を受け、ネパールの情勢に詳しい現代法学部の関昭典准教授のゼミでは緊急の募金活動『MERO SATHI (メロ・サティ ネパール語で「私の友達」の意味)』を始めました。

このゼミはこれまで現地の山村や首都カトマンズで研修を実施。参加する費用の一部を村の支援に充てるほか、ネパール支援のDVD付録本などを制作し、収益を現地の支援活動のために使うなど、現地に密着した活動を続けてきました。

ゼミ生は動画のなかで「ネパールの方は東日本大震災のときにも応援してくれました。今度は私たちがお返しをするときです。みなさんの温かい気持ちがネパール支援の力になります」と支援を呼びかけています。

今回の活動について、関准教授は「私も必死、ゼミ生も元ゼミ生も必死です。ネパールの人々はこれまで本学の多くの学生に学びと感動の場面を与えてくれました。だから、必死になって声を上げることが大事だと思います」と話しています。

6月は計11日間、学内で募金活動を行い、12万4469円の義援金を集めることができた。ゼミナール長の青嶋一輝さん(経営学部4年)が報告を行いました。現在は国分寺駅前ではほぼ毎日、街頭募金を行っています。

関連動画 (YouTube) https://www.youtube.com/watch?v=ve_upAD-MCM



② シリーズ『ゼミする東経大』

車内広告を通じて東経大、そしてゼミの魅力をアピール

都心と東京西部を結ぶ首都圏の大動脈であり、また本学の最寄り駅でもある国分寺駅を通る JR 中央線の車内窓上部に、東京経済大学のゼミ教育を紹介する広告「ゼミする東経大」が掲出されています。

このシリーズではキャッチコピーやイラスト、さらに本学が展開するゼミの魅力を短いテキストでシンプルに紹介。車内でそれを見た乗客が「ニュースで報じられていることは、そういうことだったのか!」と、思わずパチンと手を打ちたくなるようなツールとすること、そして学問の魅力を知るきっかけとなることをめざしています。

JR 中央線の広告と連動し、東京経済大学のウェブサイトでも車内広告で紹介した教員のインタビュー記事を掲載。ゼミで学ぶ面白さ、本学が持っている経済や経営、コミュニケーション、現代法といった学問を身近に、よりわかりやすく閲覧できるようにしています。

内容は1カ月ごとに更新されており、シリーズ化が定着した現在、新しい広告を待ち望む声も増えているようです。

国家予算は日本の「顔」。
厚化粧も薄化粧もあります。

ゼミする東経大 経済学部 岡本実男 准教授

国家予算は「その国の顔」をあらわします。だから、日本の現状が見えてくる。私の専門は財政学。ゼミではもっと幅広く、今年度は「セクター別成長」がテーマです。夕飯酒を読み、結果を考えます。



少人数教育を重視する東経大。自ら、主体的に学びます。だから、「ゼミする」と勧誘です。
■ 経済学部 ■ 経営学部 ■ コミュニケーション学部 ■ 現代法学部
〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-24 042-328-7724(広報課)

東京経済大学

あの着せ替え人形、
大人にもアピールするには
どんな広告プランが
いいだろう。

ゼミする東経大 経済学部 岸志津江 准教授

着せ替え人形の衣装を、大人の女性に訴求するとは？結婚式や卒業式の記念品は？結婚式や卒業式から表現まで、広告プランニングを考えます。岸教授は「問題解決能力」を養成します。(0158-826-9218)



高得点の2教科で合格判定する「ベスト2型入試」。2015年度開始、得意科目をほかぞけ！
■ 経済学部 ■ 経営学部 ■ コミュニケーション学部 ■ 現代法学部
〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-24 042-328-7724(広報課)

東京経済大学

自動音声の「ありがとう」は
コミュニケーション
なのだろうか。

ゼミする東経大 コミュニケーション学部 岡田 耀至 准教授

自動音声、SNSでやりとりや SNS コミュニケーション風なやりとりが、私たちが「コミュニケーション」というものを学ばせました。2015年という特別な年だからこそ、目を凝らして発見を一緒に探っていきましょう。(0158-826-9218)



2015オープンキャンパス 7/26[日]-8/22[土]-8/23[日] 10:00~15:00
■ 経済学部 ■ 経営学部 ■ コミュニケーション学部 ■ 現代法学部
〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-24 042-328-7724(広報課)

東京経済大学

山へ、海へ、街へ。
現場で「法」をとらえます。
環境問題を考えるゼミ。

ゼミする東経大 現代法学部 稲野 秀生 准教授

法の分野において、何が学問か。本学に大切なポイント。本学や他校の現場も視野に、一緒にゼミ。環境問題における「法」を考えたときに、現場を見て、話を聞き、理解を深めます。(0158-826-9218)



2015オープンキャンパス 7/26[日]-8/22[土]-8/23[日] 10:00~15:00
■ 経済学部 ■ 経営学部 ■ コミュニケーション学部 ■ 現代法学部
〒185-8502 東京都国分寺市南町1-7-24 042-328-7724(広報課)

東京経済大学

2015年4月から7月までの「ゼミする東経大」シリーズ JR 車内広告



③ 多摩信用金庫、西武信用金庫との連携

地域に根ざした金融機関との連携がさまざまなメリットを生み出す

東京経済大学は多摩信用金庫、そして西武信用金庫とそれぞれ連携協力協定、包括的連携・協力に関する協定を締結しています。

本学が金融機関と連携協力協定を結ぶのは2014年10月、多摩信用金庫との協定が初めてで、商店街活性化やまちづくり支援、介護福祉機器等、ユーザー満足度の高いサービス開発に向けたマーケティング支援などを目的としています。

そのひとつが、地域のニーズと大学の資源のマッチングで、これは教育・研究活動と地域社会・地域中小企業のニーズとのマッチングのコーディネートを図るもの。ふたつ目は研究協力で、多摩信用金庫の取引先から依頼があった委託研究・共同研究などを行います。そして最後は講師の派遣で、大学が行う教育・研究活動及び学生支援活動に関する講師派遣などです。

多摩信用金庫との連携協力協定調印式では、八木敏郎理事長が「東京経済大学出身のたましん職員は100人を超える。国分寺支店ではインターンシップの学生を受け入れている。関係は深い。今後は積極的に地域横断的に連携できることと期待している」と、コメント。堺憲一学長は「多摩信用金庫とは共同シンポジウムの実施など、これまでもさまざまなコラボレーションを行ってきた。今回の協定で多摩信用金庫とタッグを組んで地域活性化に取り組めることをうれしく思っている」と述べました。

西武信用金庫との包括的連携・協力に関する協定は2015年4月、国分寺キャンパスで調印式が行われました。東京経済大学と西武信用金庫は今回の連携協定の締結を通じ、日本の経済基盤を支える中小企業と地域社会の持続的発展に貢献し、双方の資源を有効活用することを目指します。

調印式には西武信用金庫から落合寛司理事長をはじめ高橋一朗常勤理事、岩崎良雄西国分寺支店長らが出席。本学からは堺憲一学長、富士正博副学長、尾崎寛直地域連携センター運営委員長が出席しました。

あいさつに立った堺学長は「地域の活性化は国家的課題のひとつ。西武信用金庫が持っている事業を活性化させるノウハウと、東京経済大学の研究力のタッグで、新しいものをつくり出し、地域を元気にしていきたい」と、連携協定について抱負を述べました。

この連携協定では、同信金のネットワークを活用して、東京経済大学の学生が取引先でインターンシップを行っていくほか、将来的には海外進出した企業などでのインターンシップも視野に入れているということです。

また、社会科学系大学の特性を生かし、教員や学生らがフィールドワークや研究対象として取引先の企業を取り上げ経営戦略などに研究結果を活用してもらうことや、学生と企業とのマッチング促進、それに交流の場の創設などが検討されています。



④ 大学案内「Space2016」:「東経 100 カラット」 サイト開設

受験生向け大学案内「Space2016」で入試広報活動



2016 年度入試に対応した受験生向け大学案内「Space2016」が 5 月 22 日に完成し、東京経済大学は本格的な入試広報活動をスタートさせました。

この冊子は A4 サイズ 128 ページで、学部や学科、ゼミ活動といった学びの紹介はもちろん社会で活躍する卒業生の声、クラブ・サークルに励み学生生活を楽しむ在学生の様子、メッセージなど、多くの関係者が登場し受験生に語りかけます。

入試ガイドのページでは、2016 年度から新設する「一般入試前期 ベスト 2 型」「コミュニケーション学部 表現 AO 入試」など多彩な入試方式を紹介。一般入試や資格取得者入試など、それぞれの方式で合格した在学生のメッセージを紹介し「私の勉

強法」など魅力的なコンテンツも掲載しています。

新しい大学案内に合わせ、ウェブサイトでは「ゼミする東経大」内の各学部ゼミページやクラブ・サークルページを更新。動画も公開し、リアルな東京経済大学の雰囲気をチェックすることができます。さらに冊子では紹介しきれない在学生の声を紹介するため、特設サイト「東経 100 カラット」(http://www.tku.ac.jp/tku100_special/) を開設。東経大生 100 名が登場し、今の目標、目標に向けて頑張っていることなどを、受験生に向けて発信しています。